

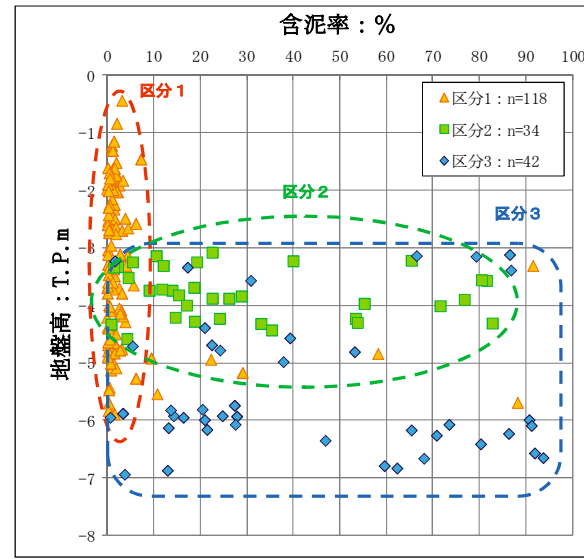
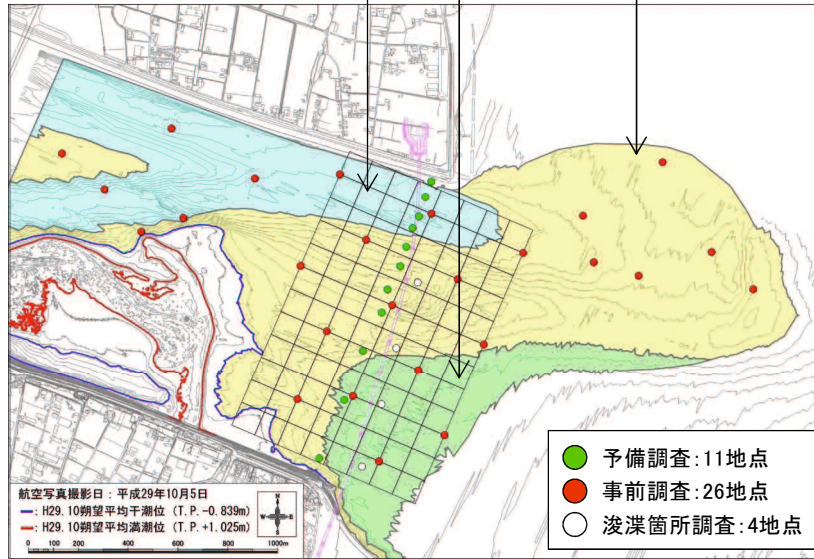
ハビタット区分の検討及び各ハビタット区分における指標種を示す。

■ハビタット区分の検討

- 調査地点の粒度組成に着目し、以下の3区分に設定。

- 区分1：河口干潟東部～河口テラス
- 区分2：右岸沖浜
- 区分3：左岸みお筋

- 常に砂質である一帯
- 泥混じりの砂質の状態が安定している一帯
- 出水等によって底質が攪乱されやすい一帯



■各ハビタット区分における指標種の選定

区分	選択した指標種	生息評価モデル
区分1	3種：フジノハナガイ、バカガイ、ヒサシソコエビ科	地盤高のみ
区分2	2種：チヨノハナガイ、シノブハネエラスピオ	選好度モデル(地盤高&含泥率)
区分3	3種：ハナオカカギゴカイ、オウギゴカイ、シノブハネエラスピオ	選好度モデル(地盤高&含泥率)

指標種の選定ルール (第6回検討会)

①過去8回の調査で連続して出現しており、個体数が多い種
 ※バカガイはH29.10、チヨノハナガイはH29.6の調査で出現していないが、過去の調査で連続して出現し、これまでモデル化してきた種のため、指標種として選出した

②種名が同定されている種
 ※ヒサシソコエビ科は本調査で一科一属のため抽出の対象とした